

登録コード	F3000332	開講年度	2026				
授業科目	技術者倫理〔B〕					担当教員	庄子 卓真
英文授業名	Engineering Ethics					副担当	河村 隆
単位数	1	講義期間	後期(後半)	曜日・時限	水曜・1時限	対象学生	学部3年（先進繊維・感性工学科、機械・ロボット学科 バイオエンジニアリングコース、応用生物科学科）
講義室	織総研棟ミーティングルーム1		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	類似名称の授業があるが、事例が異なるので自分の学科・コースの授業を履修すること
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 2 Fカリ						
	【2020年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し理解できるとともに、自ら適切な手段により発信し、他者に働きかける能力が身に付いている					⇔	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	技術者倫理の考え方と、判断および行動の規準について学べるように、講義と自ら考える方法を取り入れ進める。 ①工学倫理についての理解、②技術者としての誇りと責任、③実践的対応力。 この授業では、技術者倫理そのものに関する知識習得に加えて、過去の事例、他人の考え方を参考に事例を読んで自分の考えをまとめ、必要に応じて修正を加えていく方法も学ぶ。製造業にて実務・マネジメント経験を有した教員が、その経験を活かして具体的な例を示しながら講義を行う。						
(5)授業計画	対面講義で実施する。 この授業は90分授業で実施する。 第1回：オリエンテーション：技術者倫理とは 第2回：組織（技術者）としての個人の役割 第3回：組織上の人間関係 第4回：倫理の実行とアイデンティティ 第5回：法的側面から考える技術者倫理 第6回：コンプライアンスと説明責任 第7回：内部告発 第8回：まとめ、授業アンケート 授業の進捗状況によって内容を変更する場合がある。						
(6)成績評価の方法	・4分の3以上の出席を必要とします。 ・期末試験は実施しませんが、最終回の授業後にレポート課題があります。						
(7)成績評価の基準	上記出席要件を満たしていることを基準として、(i)論点の設定が適切であり、(ii)その論点の背景を説明できており、(iii)その論点にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握されており、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「秀：卓越している」。(i)から(v)の自分の見解の提示まで満たしていれば「優：かなり上にある」。4項目までできていれば「良：やや上にある」。3項目までできていれば「可：水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	各講義回の資料をeALPSに提示するので、各自で各項目について学習を行う。						
(9)履修上の注意	①レポート作成の際は、自身のどのような背景や経緯・経験がありその考えを示したのか記すこと。 ②論文ならびに参考・引用図書を必ず記すこと。 ③AIに頼らず自身で考え、自身の言葉でレポートないし発言をすること。 対面講義を受講する場合は、基本的な感染予防対策に留意すること。また、対面講義日に発熱等の体調不良がある場合は出席せず、その旨連絡すること。						
(10)質問、相談への対応	授業中の積極的な質問を希望するが、授業以外では、メール(syoji_takuma@shinshu-u.ac.jp)により質問を受け付ける。回答はメールの他、必要に応じて授業にて解説する。 オフィスアワーは、原則的に講義後（水曜日10：30～11：30）受け付けます。						
(11)学生へのメッセージ	技術者倫理を通じて期待する将来の姿は次の3つになります。 ①対話を重ね、方向性を導ける器量と気質を持つ。 ②自らの経験、出来事から得た知恵、知識を生かし、利他の精神を持つ。 ③「良いこと」「良くないこと」を判断でき、「良くないこと」に対しては「なぜ良くないか、どうすればよいか」を納得いくまで説明できる。						
(12)その他	なし						
【教科書】	指定しない。担当教員作成のPower Point資料を使用する。資料は必要に応じて配布する。						
【参考書】	「技術者の倫理入門（第5版）」杉本泰治・高城重厚 著 丸善出版（令和3年）1,800円+税						